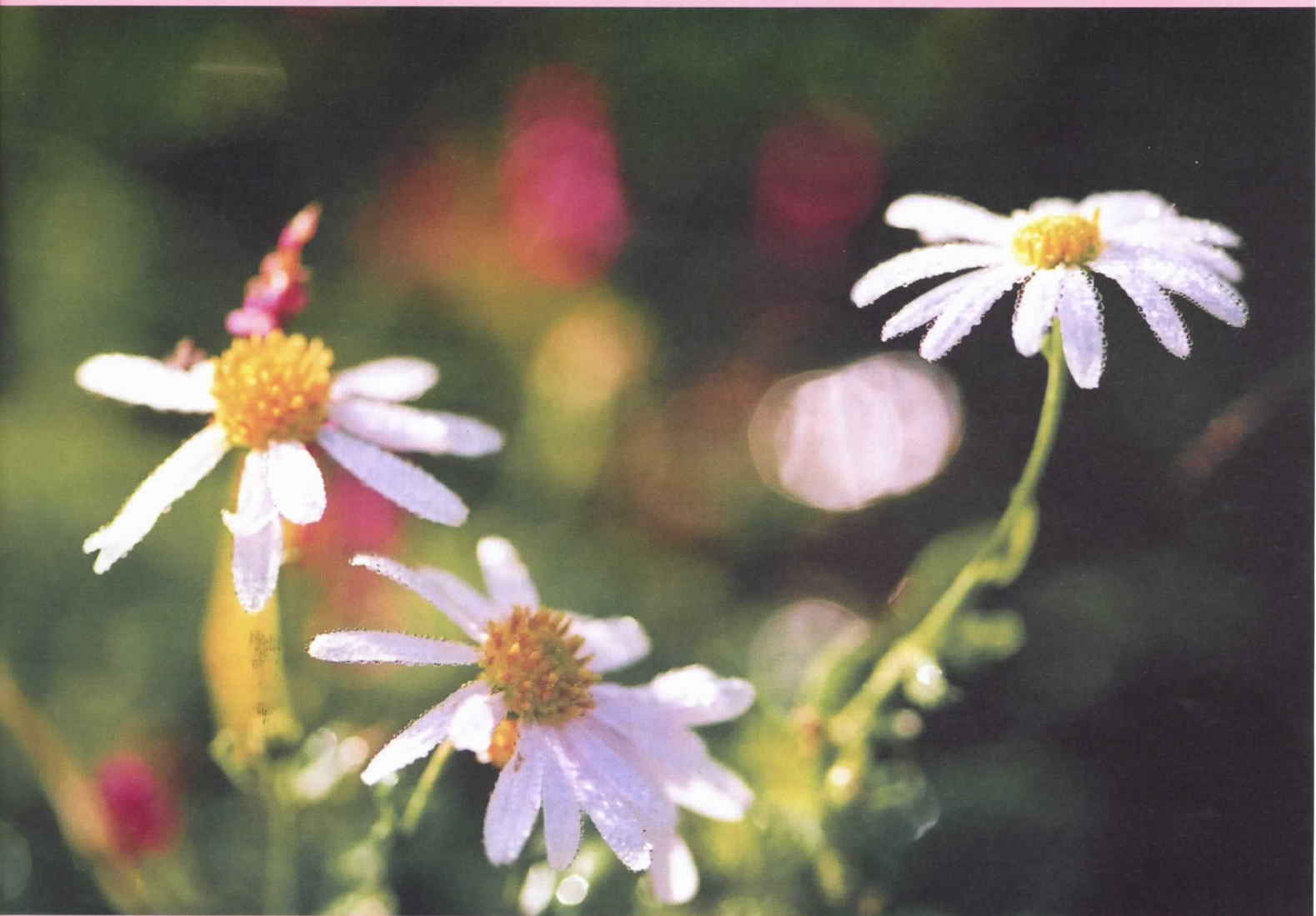


S HIGA H EALTH R EPORT



CONTENTS

- ・ 大学における感染症対策
—新型インフルエンザを中心に— …… (1)
- ・ 平成20年度定期健康診断の成績について …… (3)
- ・ 貧血検査を実施します …… (5)

NO. 67

2008年10月発行
滋賀大学保健管理センター

大学における感染症対策 —新型インフルエンザを中心に—

保健管理センター所長 山本 孝吉

はじめに ●●●

学校保健法によって定められた「学校において予防すべき伝染病」には、多くの種類があり（表1）、状況によって、その対策の一環として、学校が出席停止や学級あるいは学校閉鎖を行うことがあることを御存知でしょうか？

新型インフルエンザの発生と大流行が世界的に危惧されており、国や世界レベルでの対策については、様々な提言がなされています。一方、個人や大学レベルでどのような対策をとればよいのかについては、しっかり認識されていないのが実情です。新型インフルエンザ対策について、個人レベルから大学レベルにわたって考えてみましょう。

若者が危ない ●●●

20世紀に世界はインフルエンザの大流行を3回経験しました。なかでも1918-19年に流行したスペイン風邪は、日本での罹患者数約2400万人、死者は約40万人とされています。死者は全ての世代にわたっていますが、乳幼児の占める割合が最大であり、それに続くのは、男性も女性も20代半ばの若者でした。新型インフルエンザが流行した場合、免疫力が高いと考えられている大学生などの若者世代も安全ではありません。

手洗い・マスク・うがい ●●●

新型インフルエンザ対策として、私たち一人ひとりに何が出来るのでしょうか？ 家庭や個人で出来る感染症の予防対策として日本で一般的に行われるのは、手洗いやうがい、マスクの着用です。2002年に世界を震撼させたSARS（Severe Acute Respiratory Syndrome: 重症急性呼吸器感染症）の際に、その拡大を抑える手段として何が有効であったかを検討した研究によると、手洗い・マスク・手袋・ガウンを着用すると感染を1/10程度まで低下させうるとされました。インフルエンザにおいてもウイルス感染の拡大を防ぐ非薬物的手段として、手洗いやマスク着用の励行は十分に効果をあげると考えられます。とりわけ咳やくしゃみが出

る場合の「咳エチケット」は、インフルエンザでなくても必須の保健行動です。また、うがいについては、水道水を用いるうがいの有効性が上気道炎について明らかにされており、新型インフルエンザに対しても有効であろうと考えられます。

ワクチンと抗ウイルス薬 ●●●

インフルエンザ感染の有効な予防策としてワクチンが知られています。ワクチン接種をすることにより、小児や健康成人で70-80%に対してインフルエンザ発症の予防効果が認められます。そこで、新型インフルエンザの最も有望な予防手段として、日本はもちろん世界各国がワクチンの開発を行っています。しかしながら、ワクチンにはいくつかの問題点があります。

- ① 次の新型インフルエンザの亜型が不明であること、
- ② ワクチンの供給量に限界があり、接種が必要な人のすべてに供給できない可能性、
- ③ インフルエンザウイルスは変異しやすく、予防効果の程度の予測が難しいこと、
- ④ ワクチン接種者に予期しない副作用が生じる可能性、などです。

現在さまざまな試みが世界中でなされています。日本でも、臨床研究として医療関係者など6000人程度を対象にH5N1プレパンドミックワクチンの接種が進められています。現在のところ、新型インフルエンザが発生しているわけではないので、皆さんには、現行のインフルエンザワクチン（A H3N2, A H1N1, Bの3種混合ワクチン）の接種を受けることをお勧めします。

インフルエンザウイルスが感染した細胞内から外部に放出される際に、ウイルスの表面にあるノイラミニダーゼという酵素が必要です。この酵素を阻害しインフルエンザウイルスの増殖を防ぐのが、ノイラミニダーゼ阻害薬のオルセタミビルとザナミビルです。これらの薬は、新型インフルエンザにも有効であると考えられ、その流行に備えて、各国が備蓄を行っています。

ワクチンとノイラミニダーゼ阻害薬は、様々な問題

